

第二部 手塚治虫の描いた戦争

戦中・戦後の体験を通して、手塚治虫には「二度と戦争を起こしたくない」という強い思いが残りました。終戦後、手塚治虫は医者道を捨て、夢に見たマンガ家の道を歩み始めることとなります。

漫画家となった手塚治虫は、自らの作品の中に直接的、間接的に「戦争」を様々な形で描くようになりました。自分自身を主人公に、戦争中の体験を描いたもの。戦争そのものをテーマで描いたもの。そして、戦争に対するメッセージの織り込んで描いたもの。

手塚治虫の漫画の原点には、手塚治虫の「戦争体験」が存在しています。そして、手塚治虫は「二度と戦争をおこさない為」に戦争を語り、メッセージを送り続けていきます。

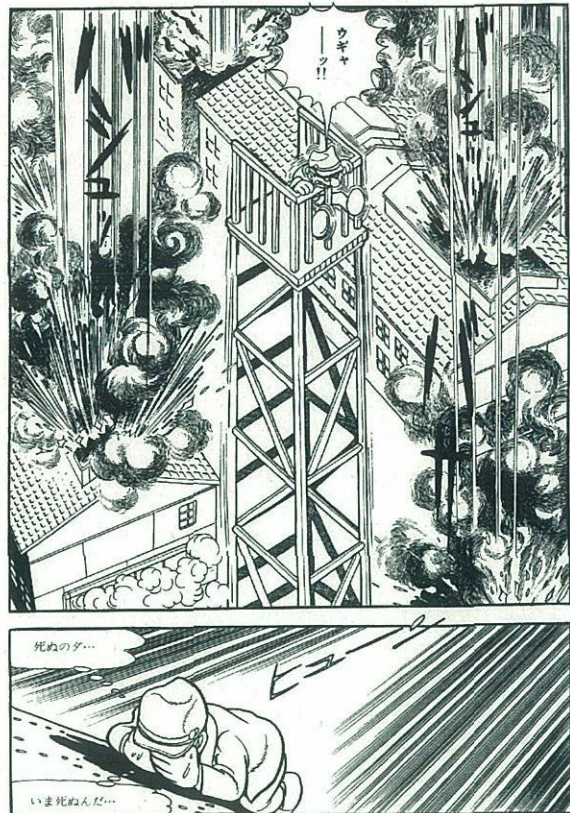
本コーナーでは、手塚治虫が「戦争」について描いた直筆原稿を、様々な視点による分類を行い展示いたします。これらを通じて、手塚治虫の思いを感じていただきたいと思います。

＜直筆原稿紹介作品＞

- | | | |
|-----------|-------------|------------|
| ○「紙の砦」 | ○「どついたれ」 | ○「鉄腕アトム」 |
| ○「カノン」 | ○「W3」 | ○「低俗天使」 |
| ○「どろろ」 | ○「火の鳥 復活編」 | ○「火の鳥 未来編」 |
| ○「来るべき世界」 | ○「ブラックジャック」 | ○「アドルフに告ぐ」 |



『低俗天使』
(週刊少年ジャンプ 昭和 50 年 5 月 12 日号掲載)
©手塚プロダクション



『紙の砦』
(週刊少年キング 昭和49年9月30日号掲載)
●手塚プロダクション

「手塚治虫伝 マンガ篇」上映（25分） 特別企画展会場内

手塚治虫の半生と作品を写真とアニメーションでつづる短編作品。そのおいたちや、戦争中のこと、マンガ家デビュー、映画的手法といわれる「新寶島」の秘密、大阪の赤本単行本時代、人気マンガ家としての作品世界、多忙な日々などを紹介します。展示期間中、特別企画展会場においてエンドレスで上映します。